

祝 辞

秀峰千軒は、残雪をかぶり続けておりますが、周辺の峰々から少しずつ緑の輪郭を見せ始める時節となり、津軽の山々を望み、時に山背の風を吹きつける海峡の色合いも、青さを増してきました。

今日、弥生三月、大安の好き日、「新潮学舎」完全竣工の式典を迎え、建設関係者をはじめ多くの皆様に感謝と敬意の気持ちを込めて心からお祝いとお慶びを申し上げます。

二十年ぐらい前、青少年の主張大会で、

「・・・形あるものが壊れるなら、学校の存続問題も不思議ではありませんが、そこで培われた学びの精神は消えることがないでしょう・・・」

「私には今、守りたいものがあります。それは、私の大切な学校、福島商業高校です。」

「私達が学校で学んだこと、嬉しかったこと、努力をしなければいけないこと、それらのことを次の世

代の皆さんにも味わってほしいのです。そして夢を見つけ実現させてほしいのです。・・・これからここで学ぶ多くの生徒に進むべき道を示してくれることを心から願っています。」と、

福島商業高校二年の女子生徒が「学校への道」と題して、切々と訴えておりました。

高校の間口が削減され存続問題が現実の課題となり、町全体で取り組む組織を立ちあげた時期でもあり、将来を担う子供たちの高等教育をどうするのかを熟慮し、強力な実行が必要との思いを強くしました。

関係者の強い熱意と努力によりふるさと留学がはじまり、町に今までにない交流が生まれ、色々な行事を通して町民が生徒たちの活動を直接実感する機会が多くなってきていると思っておりますし、オーブンキャンパスや東京・札幌などでの入学希望者との個人面談で生徒が主体となってがんばっていることも周知されております。

全国的に出生数が減少、人口減少が急速に進み高校進学者数も確実に縮小し続け、生徒確保の激化も懸念されます。

「ふるさと留学」を実体験し熟知する生徒達や関係者の皆さんの協力を頂きながら英知を出し合い、さらなる魅力化に向けて策を講じていかなければとの思いも強くいたしております。

無限の可能性を秘め、個性あふれる寮生の皆さんが、新潮学舎に集い、不断の活動を通して、協働の絆を強め、失敗を恐れず果敢に立ち向かう「挑戦」の気概を育み、未来に向かって大きく飛躍することを中心からご祈念し祝辞といたします。

令和七年三月三十一日

福島町議会

議長 溝部 幸 基